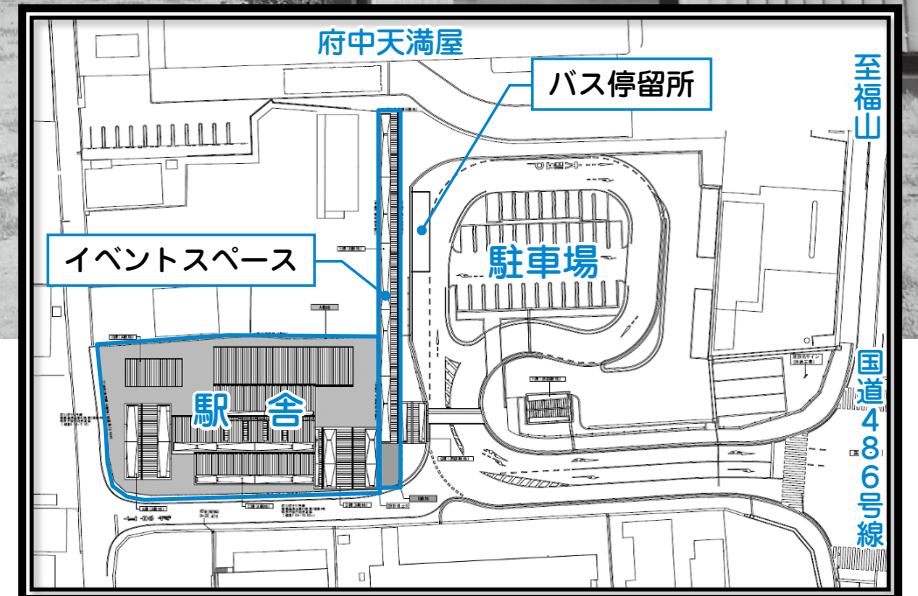


道の駅びんご府中 今月22日（土） 朝9時オープン決定！



道の駅びんご府中の役割に期待

府中市をもっと住みやすく
 歩いて暮らせるまちを目指して

府中市は、子ども、高齢者、子育て世代、車を持つ人、持たない人、さまざまな人が住みやすいまちを実現するため、お店、公共機関など生活に必要な機能が集約され、公共交通ネットワークが構築されたまちづくりを目指しています。

まちづくりの核としての道の駅

道の駅びんご府中には、市街地を循環する「ぐるっとバス」や広島市や都市部を結ぶ高速バスの停留所、産直市場などの地域振興施設を整備します。この周辺には、商業施設やJR府中駅が立地しており、道の駅が誕生し生まれる相乗効果は、さらなる「賑わい」「便

利」な「歩いて暮らせる」まちへの一歩となります。

地域の産業を振興する道の駅

道の駅内で、市内で製造・生産された商品のPR、販売を行うことで、地域の農・商・工業の振興を図ります。

地域情報を発信する道の駅

販売を通して、特産品などの情報を発信するとともに、情報スペースでは観光情報などを発信し、道の駅から市内各所へ人を誘います。

ほっと一息つける道の駅

ご当地料理、コーヒー、ソフトクリームなどを府中家具に座って味わっていただけます。キッズスペースや授乳室を備えますので、小さなお子さん連れの人にも利用しやすい場所です。

道の駅びんご府中 設計者の思い

小さな場所の集まりが賑わいを生む道の駅

従来の郊外に建てられる道の駅のようにレストランや特産品売場をひとまとまりにするのではなく、小さなスケールの建物に分けることで屋外にも多くの居場所を設けて周辺とのつながりをつくりました。

まちを散策するように、日常生活の延長として利用して頂ける市街地型の道の駅です。

府中家具を引き立てる建築の構造

建物の構造体は鉄骨による細いフレームと木の梁によって見通しを良くしています。産直市場の販売棚やレストランの家具といった府中家具が主役の空間となるよう計画しています。

心地よい環境をつくる木屋根

鉄骨の上に載せられた軽やかな木屋根は、隙間から光を取り入れ、室内の熱を逃がし、分けられた建物の雨水を一体的に処理できる役割を担っています。建物を分棟にすることで風の抜けも確保できるようになっています。この他にも地元産業のデニムや備後緋でつくった暖簾などを用いて、機械設備だけに頼らない快適な環境づくりを行っています。

設計事務所プロフィール
 シーラカンスK&H株式会社
 工藤和美氏と堀場弘氏の二人の建築家が主宰。
 これまで多くの公共建築を手掛け、2014年度JIA日本建築大賞（熊本県山鹿小学校）、日本建築学会作品選奨（金沢海みらい図書館）など多くの賞を受賞。